

2024 年度 千葉市 U-11 サッカー大会
決勝戦評

日時：2024 年 9 月 22 日 試合会場：青葉の森陸上競技場

気象状況：曇り

ピッチ状況：天然芝 キックオフ：11 時 30 分

対戦チーム Wings U-12 — ジェフユナイテッド市原・千葉 U12

試合結果

0	0	前半	0	1	
	0	後半	1		

戦評

2024 年度 U-11 決勝は、準決勝で長作 SC に勝った Wings U-12（以下「Wings」）と準決勝で大森 SC に勝ったジェフユナイテッド市原・千葉 U12（以下「ジェフ千葉」）との戦いになった。

前半は Wings のキックオフで始まった。両チームともに基本的なフォーメーションは 3-3-1 でフォーメーションによる mismatch は生じなかった。一方で、チームの基本的なスタイルは、ジェフ千葉が GK から丁寧にビルドアップをしながらグラウンドを広く使い守備の薄いエリアからゴールを目指すスタイルであるのに対し、Wings は前線から選手が意図的にアプローチをしながら規制し、そこからボールを奪ってショートカウンターをしかけることでゴールを目指すという点でスタイルには違いがあり、どのような試合展開になるか非常に楽しみな試合となった。

ジェフ千葉は、前半開始後、中央からの攻撃とサイド攻撃を組み合わせながら相手を動かし、守備の薄くなったエリアからゴールを目指すも Wings は 69 番を中心に守備意識が非常に高く、ボール保持者に対して積極的にアプローチをすることで自由にプレーをさせなかった。一方の Wings もファースト DF がアプローチをし、規制をかけることでセカンド DF のところでボールを奪う、又はセカンド DF がパスコースをさらに限定し、相手にボールを蹴らせて回収することでそこからショートカウンター気味にゴールを目指すもジェフ千葉の守備意識も非常に高く、ゴールを奪うまでには至らなかった。

Wings は、前半 5 分に前線からプレスをかけパスコースを限定し DF ラインから前線の選手への縦パスを 69 番がパスカット。そのままニアゾーンに進入しゴール前にクロスを供給するもここはジェフ千葉が粘り強いディフェンスで守り抜く。逆にジェフ千葉は前半 7 分に中央で 17 番がボールを保持し左サイドのディフェンスの背後にスルーパスを供給するも Wings の堅い守備に合ってゴールまでには至らなかった。常に背後を狙うという攻撃の優先順位を意識した好プレーだった。一方で Wings の選手もファースト DF と GK が連携しボール保持者にアプローチするとともに、GK が前に出た背後のスペースを別の選手（69 番）が

埋める等、両チームが非常に質の高いプレーを見せた。

Wings は、前半 10 分にはジェフ千葉のビルドアップの一瞬のミス wings67 番が見逃さずにインターセプトしそのまま持ち込んでシュートを打つも GK23 が好セーブでゴールを守る。その後も両クラブともに球際の攻防が厳しく相手に自由にボールを持たせないことで非常に締まった見応えのある試合になった。前半 14 分にはジェフ千葉 22 番が Wings からディフェンスラインでボールを奪い、そのまま左サイドに駆け上がりシュートを打つもこれは僅かにゴールを外れた。前半 15 分にもジェフ千葉 17 番から左サイドの背後へのスルーパスからボールを受けたジェフ千葉の選手がカットインしシュートを放つがディフェンスの好守備にブロックされる。しかし、ハンドの判定で FK を取得し、これを 28 番が直接狙うも惜しくもクロスバーでゴールとはならなかった。逆に、Wings は前半 19 分に前線からアプローチをかけボールを奪ってゴール前に迫るが、ジェフ千葉がここは体を張って守り切り、前半はこのまま 0 対 0 のままタイムアップとなった。両クラブともにゴールを奪う、ゴールを守るという気持ちが強く見えた非常に好ゲームになった。

後半も基本的なフォーメーションは両チームともに 3-3-1 でスタートした。

ジェフ千葉は、後半 2 分に 29 番が右サイドから突破を試みるも Wings が好守備で守り切る。逆に Wings は後半 6 分にアタッキングサード内での攻防からボールを奪い 43 番がファーストコントロールから上手く抜け出してシュートを狙うも惜しくもサイドネットでゴールにはならなかった。この場面を含め、両クラブともに置かれた状況を踏まえたコントロールが出来ている場面が多く見られた。その後、Wings はジェフ千葉のディフェンスラインからボールを奪いドリブル突破からゴールを目指すもジェフ千葉の選手のカバーリングも早くゴールを割らせない。さらに、Wings は 69 番がボールを奪い直ぐさま右サイドに展開。ボールを受けた 61 番が縦に抜け出した 42 番にパスし、それを 42 番がヒールで落として 61 番がダイレクトでシュートを放つ等、ゴールには至らなかったが、創造性の高さを感じるプレーだった。一方のジェフ千葉も右サイドでボールを奪い、中央から左サイドにボールを経由し 30 番がシュートを打つ等、ゴールに迫った。その後も一進一退の攻防が続く。Wings は後半 11 分に FK、後半 14 分にはコーナーキックを獲得し、波状攻撃を仕掛けてゴールを目指すもジェフの守備も硬くゴールを割ることが出来ない。逆にジェフ千葉は後半 15 分にゴールキーパーからのパントキックを 27 番が上手くヘディングを使って縦に抜け出すも 69 番が絶妙なスライディングでシュートを打たせない。16 分にはジェフ千葉 30 番が左サイドに抜け出しクロスを上げるも Wings がこれも掻き出しゴールを割らせない。しかし、ジェフ千葉は、ここで得たコーナーキックを 29 番が直接ゴールを狙い、これがゴールに吸い込まれた。非常に質の高いキックでジェフ千葉が念願のゴールを奪い切った。

一方の Wings も声を掛け合い諦めずに最後までゴールを目指す。後半 19 分にはペナルティエリア外でフリーキックを獲得。ゴール前にボールを供給するもジェフ千葉がボールを掻き出して守り切る。終了間際には 69 番が右サイドに侵入しクロスを供給するもこれはク

ロスを合わせきれずゴールには至らず、ジェフ千葉が最後まで集中を切らさずに守り切って1対0での優勝となった。

両チームともに攻撃においてはゴールへの意識が高く、各々スタイルは違うもののサッカーの本質である「ゴールを目指す」姿勢が強く見られた。相手のアプローチが弱ければ若干遠くからでも積極的にシュートを打つ場面も見られ、背後へ抜け出す攻撃も含め、サッカーの本質を追求するプレーが見られた点は良かった。

守備については、ビルドアップをする相手に対してファーストDFが積極的にアプローチにいきながら規制をかけ、セカンドDFやサードDFが連動してボールを奪いにいく等、「ゴールを守る」「ボールを奪う」という守備の目的を意識したプレーが実行されていた。特にゴール前の攻防では攻撃では二次攻撃、三次攻撃をしかけるプレーが見られ、逆に守備ではそれに対して体を張って守る姿勢が見られた。何としてもゴールを奪う、何としてもゴールを守るというサッカー選手として求められる強い気持ちが見られた。

切り替えの部分では、両チームともに、攻撃から守備、守備から攻撃の切り替えが早く、相手に自由にプレーをさせない質の高いプレーが1試合を通して見られた。

両チームともに千葉市の頂点を決めるのに相応しいプレーを見せてくれたと感じた。

ジュニア年代は残り1年になるが、各クラブの選手にはサッカーを一層楽しみ、一層精進することで千葉市大会U12で一層の素晴らしいプレーを見せてくれることを期待する。

緑区サッカー協会4種委員会技術部 金井拓也